

衆議院議員齋藤農林副大臣の来賓祝辞 平成 28 年 1 月 19 日 於；東京ガーデンパレス

新年明けましておめでとうございます。全肥商連、全複工の皆様には農政にご協力を頂いておりますこと心から感謝を申し上げたいと思います。農林副大臣の齋藤健です。今日は高校の後輩ではあるのですが議員として先輩の後藤田さんから是非ここに来るよという命令を受けまして馳せ参じたところでございます。私ごとでございますが、経済産業省に 23 年奉職をしております、農業は 2 年少し前に自民党農林部会長を拝命いたしまして、生産調整の 40 年振りの見直しとか、60 年ぶりの農協改革ですとか、TPP ですとかこの 2 年数か月の間農業三昧でやってまいりましたが、23 年の通産生活と農業は 2 年数か月ということでもありますので、両方に軸足を置きながら全体を見て前進を図っていきたく思っているところでございます。直近の話をいたしますと、TPP の政策大綱で皆さん方ご案内のように、生産資材の価格形成を少し議論しようということになっております。秋までに何らかの方向性をだすということで政府も決めておりますし、自民党のほうも決めております。そういうことでこれから議論が始まっていくことでもあります。肥料に限らず飼料、農業機械の流通がどうなっているのかをこれから確りと党も政府も検証していこうということになっております。先ほど石破大臣からお話がありましたように、人口はどんどん減少していきます。日本農業は国内マーケット中心ですので、人口が減れば国内マーケットはどんどん減っていくこととなります。何も何百年後を想定しなくても、2050 年には今から人口が 3 割くらい減るといことになると言われております。2050 年には今農業をやっている若い人たちがまだ農業をやっているそういう時期だと思っております。この人口減に対応していくためには少なくとも今と同じことをやっていけばジリ貧となります。新しいことに挑戦しなければ日本の農業に未来がないというのは明白な事実であります。ということで一連の農政改革は人口減、国内マーケットにどう立ち向かっていくかということでこの 2 年邁進をしてきているということでございます。皆様方の協会も日本の農業と共にある業界の皆様であろうと思っております。日本の農業がすたれば皆様も運命共同体と思っております。是非 日本の農政 この新しい一步を踏み出して、この人口減少に耐えるために輸出を増やしていくそれから農業 6 次産業をやっていく、やるべき方向は決まっております。是非皆様方と手を携えてこの曲がり角をきれいに曲がって曲がった先には明るい未来が見えるという転換期を乗り切っていきたいと思っております。最後にこれは申し上げなければならぬのですが、一部の肥料事業者の表示違反事例というものがございました。今農水省は全肥料製造業者に生産工程の確認を行って頂いているところでございます。是非真面目にやられている方が馬鹿をみないようにご協力を頂きまして信頼を回復して農業と共に今年乗り切っていけたらと思っておりますので、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。少し長くなりましたけれど万感の思いを込めまして話をさせていただきました。一緒に頑張りましょう。有難うございます。